

技術面の課題への取組状況

I - 1 . 全国的な保菌状況及び管理手法の 明確化等に向けた取組状況

農林水産省食品安全政策課

I - 1 .技術面の課題への対応状況① ～協議会の設置及び開催状況～

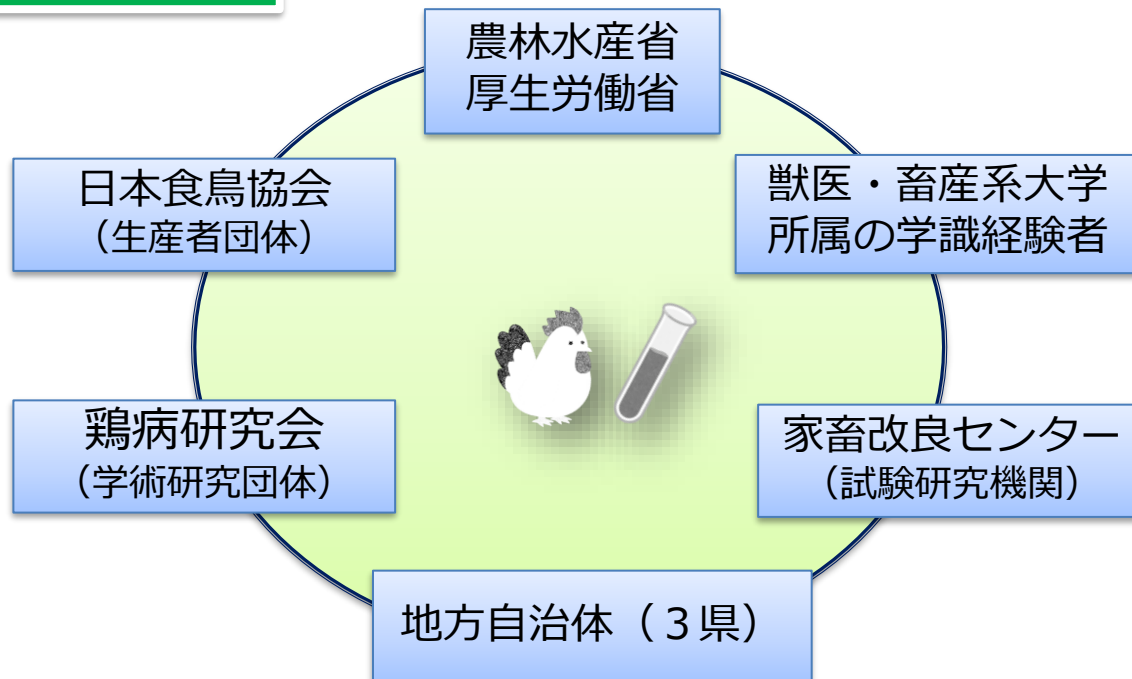
○ 生産者団体、自治体、試験研究機関、獣医・畜産系大学、学術団体の参画を得て、**「カンピロバクター調査に係る協議会」**を設置（令和7年2月）

【開催実績】

- ・ 第1回（令和7年2月開催） 主な議題：今後の調査の進め方について
- ・ 第2回（令和7年7月開催） 主な議題：令和7年度実施予定の調査について

○ 第3回を令和7年12月頃に予定。得られた調査結果について分析・評価し、来年度以降の調査計画の設計・見直しを行う。

実施体制



調査実施の流れ

調査設計 立案
調査設計 見直し

調査対象の選定
(公募を含む)

調査実施
実証試験

調査結果の
分析/評価/公表

I - 1 .技術面の課題への対応状況② ～当面のスケジュール～

農場段階	R 7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
有効な管理手法がわからない					
➤ 全国的な保菌状況（サーベイランス）					
・ ブロイラー/大規模		←→			
・ 地鶏/認定小規模		←→			
・ 分離菌株の性状			←→		
➤ 管理手法の明確化					
・ 空舎時の消毒		←→			
・ 履物消毒		←→			
・ 飲水消毒			←→		
・ 生産資材の活用				←→	
➤ 専門調査会の指摘を踏まえた知見収集		←→			
➤ 有効な対策の普及					
・ 衛生管理指針の改訂	→		←→		
※ 鶏肉の生産衛生管理ハンドブックの改訂 ※ 特定できた対策について、指針を定期的に改訂					
農場の汚染水準が簡便に把握できない					
・ 簡易検査キットの性能、課題の把握	←→				
・ 簡易検査マニュアルの作成等		←→			
・ 新規手法の開発			←→		
食鳥処理・加工場	R 7	R8	R9	R10	R11
区分処理のインセンティブが働かない					
・ 区分処理の効果実証/普及		←→			
処理工程における菌量低減が限定的					
・ 陽性鶏群処理後のライン消毒		←→			

I - 1 .技術面の課題への対応状況③ ～全国的な保菌状況～

- 調査目的 : 国内における肉用鶏のカンピロバクター保菌量、鶏肉のカンピロバクター汚染量を明らかにする
 - 調査期間 : 2 年間
 - 調査対象 : 全国の大規模食鳥処理施設に搬入された以下を調査
 - ・盲腸内容物 : 1 鶏群10羽※1、※2
 - ・最終製品（ムネ肉及びモモ肉（皮付き）） : 1 鶏群各 1 検体※3
- ※1 同じ鶏舎で飼育され、同じ日に出荷された鶏の群
※2 内臓検査後の盲腸を含む消化管を採取し、検査場所にて盲腸内容物を摘出
※3 真空パック後の最終製品2kg相当を 1 検体として検査
- 調査点数 : 385検体以上/ 1 年間
 - 検査方法 : ISO法（ISO 10272-2:2017）による定量試験及び菌種の同定

※ ISO法とは ... 国際標準化機構（ISO、International Organization for Standardization）が策定する国際標準と認知される微生物試験法

I - 1 .技術面の課題への対応状況④ ～全国的な保菌状況～

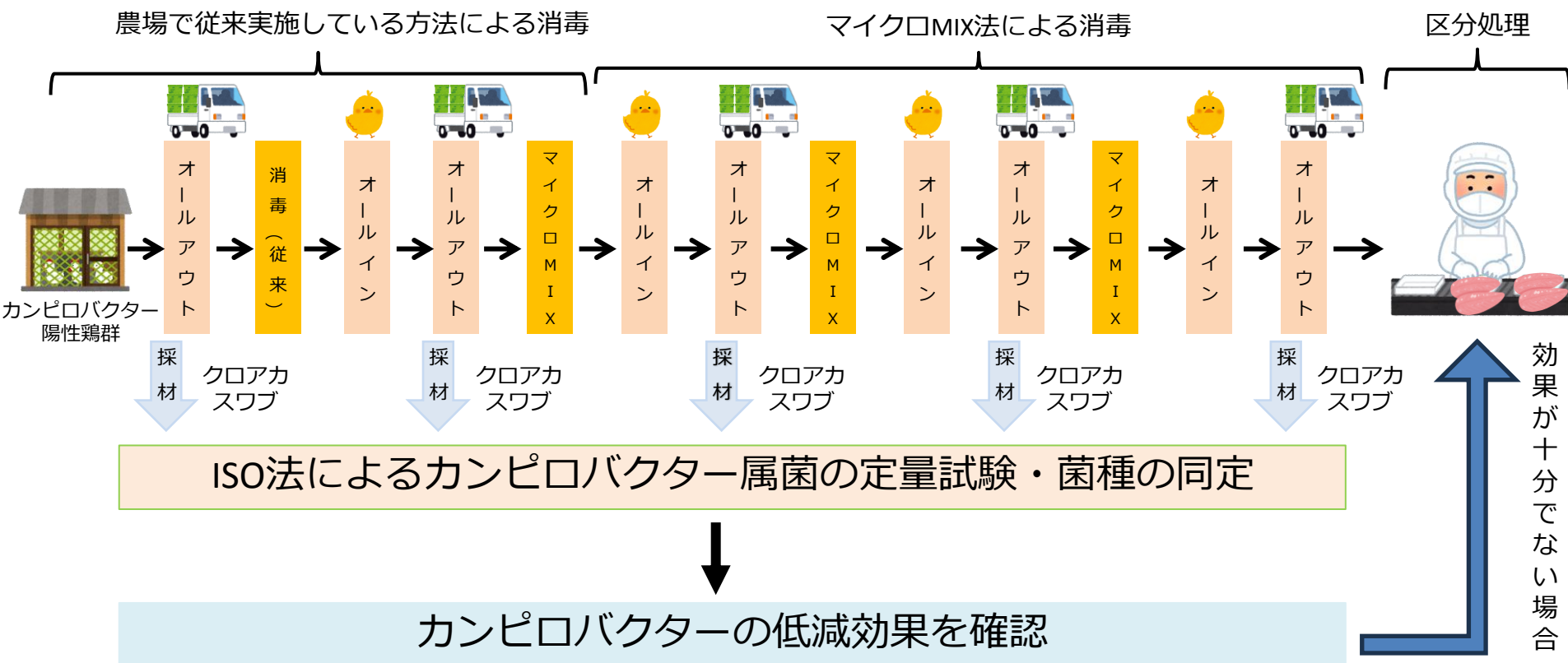
- 日本の肉用鶏農場のカンピロバクター陽性率を50%と想定して、許容誤差 5 %、信頼水準95%で陽性率を知るための調査点数は385鶏群。（地鶏の調査点数は肉用鶏の 2 %（ 7 鶏群）以上とする。）
- 地域性を考慮するため、表 1 ①～⑦のブロックで大規模食鳥処理場が多い道県を選定し、道県ごとの飼養羽数に応じて割り付け。
- 季節性を考慮するため、年間を四半期に分けて採材するとともに、年次間の変動や季節間の変動等の傾向が把握できるよう、当該調査を 2 回（ 2 年）行う。

表 肉用鶏におけるブロックごとの必要鶏群数と四半期ごとの採材鶏群数

ブロック	都道府県	必要鶏群数	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	年間
①北海道	北海道	15	4	4	4	4	16
②東北	岩手県	86	24	24	24	24	96
③関東	千葉県	13	4	4	4	4	16
④中部	静岡県	15	4	4	4	4	16
⑤近畿	兵庫県	9	4	4	4	4	16
⑥中国	徳島県	41	12	12	12	12	48
⑦九州・ 沖縄	宮崎県	98	24	24	24	24	96
	鹿児島県	108	28	28	28	28	112
	合計（鶏群）	385	104	104	104	104	416

I - 1 .技術面の課題への対応状況⑤ ～管理手法の明確化～

- 有機物存在下や低温下でも効果的な消毒方法（マイクロMIX法）の畜産現場における効果実証を目的として、カンピロバクター陽性のブロイラー鶏群を飼養する鶏舎のオールアウト後の鶏舎消毒にマイクロMIX法を採用し、カンピロバクターの低減効果を確認する。
- マイクロMIX法単独による効果が得られなかった場合、来年度以降、食鳥処理・加工場における区分処理等を含めた対策を検討。



I - 1 .技術面の課題への対応状況⑥ ～管理手法の明確化～

- 飼育期間が長い地鶏の衛生管理手法を明確にするための基礎的な科学的知見の収集を目的に、地鶏におけるカンピロバクターの定着時期、鶏肉の汚染状況を調査し、衛生管理の実施状況と併せて侵入経路を推定し、有効な対策を検討

